

2021年3月期 通期決算説明会資料

2021年5月13日
株式会社ラック

© 2021 LAC Co., Ltd.

社長の西本です。本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。

本年 3 月末で前回の中期経営計画が終了しましたので、このタイミングで新たな中期経営計画を発表するところですが、新型コロナウイルスによる不透明感もあり、内容をもう少し吟味したうえで発表することにいたしました。

遅くとも第 1 四半期の決算発表までには公表する予定としており、もうしばらくお待ちください。

2021年3月期 通期決算概要

それでは、2021年3月期 通期決算についてご説明いたします。まずは前期の決算概要です。

新型コロナウイルスの影響により第1四半期は一部苦戦
オリンピックなどに向けて人員体制強化を図っていたのが利益面に大きく響く
その後、第2四半期の進捗を鑑みて昨年11月に通期業績予想を下方修正

第4四半期にセキュリティ対策サービスが順調に拡大
(株)日本貿易保険での仕掛品等が長期滞留していることから
会計監査人と協議し評価損として特別損失を計上※

親会社株主に帰属する当期純利益は特別損失の計上で減益となったものの
売上高、営業利益は増収増益
セキュリティ事業は過去最高の売上高を更新、前期に比べ増益で着地

※(株)日本貿易保険との契約の取り扱いについては協議継続中。

©2021 LAC Co., Ltd.

新型コロナウイルスの影響により、第1四半期はセキュリティ事業の一部で苦戦しました。

特に、その前の期の上期に人員が不足した反省とオリンピック需要を踏まえて、セキュリティ診断事業の人員体制強化を図っていたことが利益面で大きく響き、第2四半期の進捗をみて、昨年11月に通期業績予想を下方修正しました。

第4四半期において、セキュリティ対策サービスが順調に拡大したことで利益は伸長したものの、(株)日本貿易保険との仕掛品が長期滞留していることから、会計監査人と協議し、評価損として特別損失を計上することとしました。

その結果、前期と比べて、親会社株主に帰属する当期純利益は特別損失の計上で減益となりましたが、売上高、営業利益は増収増益となりました。また、セキュリティ事業は過去最高の売上高を更新し、通期では増益となっています。

連結決算ハイライト（前期比）



**新型コロナウイルスの影響を受けつつも増収
セキュリティ事業の人員体制強化や社内IT投資、社員向け特別支援一時金の支給等があったものの増益
長期滞留仕掛品評価損の計上により当期純利益は減益**

（百万円）

科目	'20年3月期 通期実績	'21年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	40,466	43,693	+3,227	+8.0
営業利益	1,767	2,117	+350	+19.8
営業利益率%	4.4	4.8	+0.5p	-
経常利益	1,869	2,242	+372	+19.9
経常利益率%	4.6	5.1	+0.5p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,091	304	△786	△72.1
自己資本当期純利益率（ROE）%	9.4	2.6	△6.8p	-

（注）在宅勤務等の負担に対する全社員への特別支援一時金の支給として約70百万円を計上しています。
長期滞留仕掛品評価損1,248百万円を特別損失として計上しています。

4

© 2021 LAC Co., Ltd.

前期と比較した業績数値がこちらになります。

新型コロナの影響を受けつつも、売上高は8%の増収、営業利益は、セキュリティ事業の人員体制強化や社内IT投資を実施したものの、19.8%の増益となりました。

当期純利益は、先程ご説明したとおり、仕掛品の評価損を特別損失として計上したことにより、72.1%の減益となっています。

セグメント別業績（前期比）



セキュリティ事業は過去最高の売上高を更新、前期比で増益へと転換 SI事業も増収増益で過去最高益を更新

（百万円）

売上高	'20年3月期 通期実績	'21年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	16,446	18,659	+2,213	+13.5
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	24,019	25,033	+1,013	+4.2
合計	40,466	43,693	+3,227	+8.0

セグメント利益	'20年3月期 通期実績	'21年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,438	2,541	+103	+4.2
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	2,905	3,172	+266	+9.2
合計	5,344	5,714	+370	+6.9

全社共通費用	△3,577	△3,597	△19	-
--------	--------	--------	-----	---

（注）セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

セグメント別で見ますと、セキュリティ事業は第2四半期以降、売上が拡大したことで過去最高の売上高を更新しました。セグメント利益は、前期比で増益となっています。

SI事業も増収増益となり、利益は前期に続いて過去最高を更新しました。

全社共通費用は、基幹システム刷新や働き方改革などのIT投資により増加していますが、販売・管理費の抑制などもあり、前期からほぼ横這いとなりました。なお、基幹システムについては、今年4月の開始を予定していましたが、追加対応などが必要な要件もあり、開始が延期となっています。

セキュリティ事業は全般的に拡大基調となり増収、人員体制強化等があったものの増益

●コンサルティングサービス

教育サービスは苦戦したものの、猛威を振ったサイバー攻撃に対し企業への緊急対応サービスが大きく伸長

●診断サービス

第1四半期は苦戦したものの、第2四半期以降、Webアプリ診断やプラットフォーム診断が拡大し、IoTセキュリティ診断サービス等の新サービスも拡大

●運用監視サービス

中部地域大手製造業グループ向けなどの運用監視サービスの売上が拡大

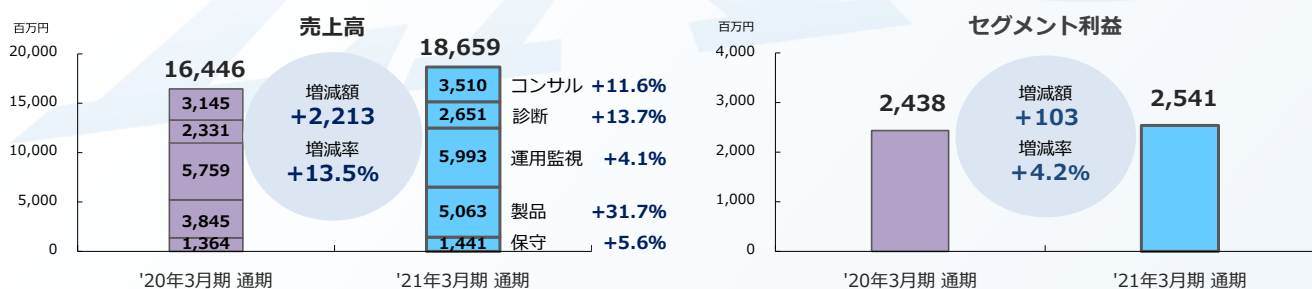
●製品販売

サービス妨害型攻撃にも対応したWebセキュリティ対策をはじめとするクラウド対応製品などが拡大

●保守サービス

既存案件の更新等により増加

セグメント利益は、人員増強などの体制強化等を推進しながらも増益



© 2021 LAC Co., Ltd.

次にセグメントごとの詳細状況です。

セキュリティ事業は全般的に拡大基調となり、全サブセグメントで増収となりました。

コンサルティングでは、教育サービスが苦戦したものの、猛威を振ったサイバー攻撃に対して緊急対応案件が増え、約500件と過去最高の件数を更新するなど好調に推移しました。

診断サービスは、第1四半期に新型コロナやオリンピック延期の影響があったものの、第4四半期の拡大により大きく伸長することができました。

また、運用監視サービスは、中部地域の大手製造業グループ向けが順調に進み拡大しました。セキュリティ対策への意識の高まりにより、製品販売も大幅に拡大しました。

その結果、セグメント利益は、積極的な新人採用など人員体制強化を進めながらも、前期に比べ増益となりました。

セグメント別業績ポイント システムインテグレーションサービス（S I S）事業



ソリューションや開発サービス等の拡大により増収、管理体制強化等により増益

●開発サービス

銀行や保険など金融業向け案件が減少したものの、公共および情報サービス業向けなどの案件が伸長

●HW/SW販売

クラウドサービスの拡大等により需要は縮小しているものの、更新案件の獲得等により増加

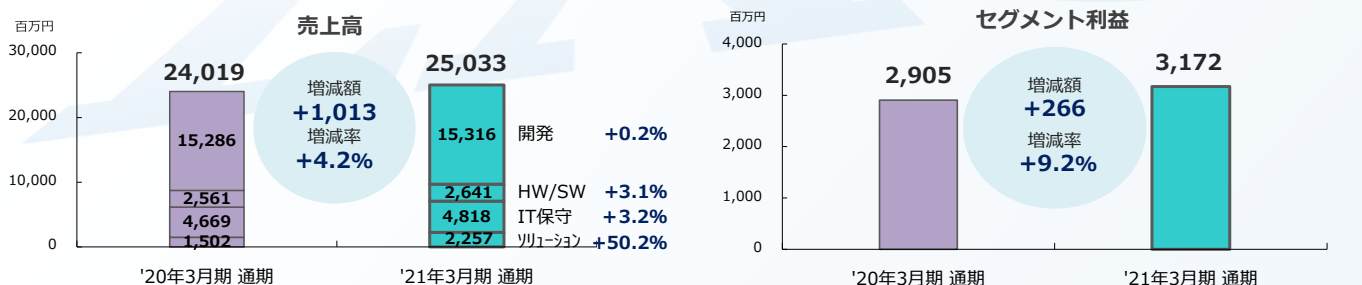
●IT保守サービス

前期（2020年3月期）のHW/SW販売が堅調に推移し契約更新案件が増加

●ソリューションサービス

テレワーク需要に対応したリモート接続ソリューションやマルチクラウドにおける開発管理ソリューションの販売が拡大

セグメント利益は、開発サービスの管理体制強化等により収益性が改善し増益



7

© 2021 LAC Co., Ltd.

次にSI事業です。こちらも全サブセグメントで増収となりました。

屋台骨である開発サービスは、金融の大型案件は減少してきているものの、公共や情報サービス向けの案件が順調に拡大し、微増ですが増収となりました。

またソリューションは、絶対額は少ないものの、テレワーク需要に対応したリモート接続ソリューションやマルチクラウド向けの開発管理ソリューションなどの拡大により大きく伸長しました。

セグメント利益については、開発サービスの管理体制強化もあり、大きなトラブルに見舞われることなく、収益性が改善したことで増益となっています。

連結貸借対照表ハイライト（前期末比）



財務基盤の安定性に配慮しつつ、経営環境の変動に対応可能な手元資金を継続確保

（百万円）

科目	'20年3月期末	'21年3月期末	前期末比 増減
資産合計	22,383	24,626	+2,242
流動資産	14,976	16,349	+1,372
固定資産	7,407	8,277	+870
負債合計	10,420	12,965	+2,545
流動負債	9,515	10,032	+516
固定負債	904	2,933	+2,028
純資産合計	11,963	11,661	△302
現預金	4,653	6,367	+1,713
有利子負債	3,033	4,843	+1,809
自己資本比率	53.4%	47.3%	△6.1p

増減ポイント	
資産	
【流動資産】	
・現金及び預金の増加	+1,713
・受取手形及び売掛金の増加	+1,011
・仕掛品の減少	△1,113
【固定資産】	
・ソフトウェアの増加	+701
負債	
【流動負債】	
・1年内返済予定の長期借入金の増加	+1,336
・短期借入金の減少	△1,500
【固定負債】	
・長期借入金の増加	+1,932
純資産	
【純資産】	
・利益剰余金の減少	△320

8

© 2021 LAC Co., Ltd.

続いて、財政状態の概況です。

新型コロナをきっかけとした経営環境の変動に柔軟に対応するため、短期借入を行っていましたが、第3四半期に短期から長期へと転換を行っており、十分な手元資金をより安全に確保しています。

自己資本比率は、借入と現預金の増加などにより、前期末より低下しましたが、前述の通り資金調達の長期安定化を図っており、財務基盤の健全性は引き続き維持しています。

連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト



事業基盤強化のための投資を推進しつつ、フリーキャッシュ・フローが改善

(百万円)

科目	'20年3月期 通期実績	'21年3月期 通期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,693	1,969
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,445	△1,358
財務活動によるキャッシュ・フロー	79	1,091
フリーキャッシュ・フロー	247	610
現金および現金同等物の増減額（△は減少）	310	1,713
現金および現金同等物期首残高	4,343	4,653
現金および現金同等物期末残高	4,653	6,367

発生ポイント

営業キャッシュ・フロー

・税金等調整前当期純利益	1,001
・減価償却費	860
・のれん償却額	72
・長期滞留仕掛品評価損	1,248
・売上債権の増加額	△1,010
・法人税等の支払額	△526

投資キャッシュ・フロー

・有形固定資産の取得による支出	△453
・ソフトウェアの取得による支出	△1,074

財務キャッシュ・フロー

・短期借入金の純減少額	△1,500
・長期借入金の返済による支出	△732
・長期借入れによる収入	4,000
・配当金の支払額	△622

次に、キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは19億円を確保しました。基幹システムやセキュリティ事業の基盤強化のためのシステム開発投資を継続推進しながらも、フリーキャッシュ・フローは6億円のプラスとなりました。

このように事業基盤強化の投資を行いながらも、フリーキャッシュ・フローを改善しています。

以上が、前期の業績と財務のご説明となります。

2022年3月期 連結業績予想

続きまして、2022年3月期の業績予想についてご説明します。

連結業績予想（前期比）



売上伸長を見込むものの、基幹システム刷新等のIT投資や
販売・管理費の増加などにより営業利益は前期並となる予想
当期純利益は大幅増益の予想

(百万円)

科目	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	43,693	47,200	+3,506	+8.0
営業利益	2,117	2,100	△17	△0.8
営業利益率%	4.8	4.4	△0.4p	-
経常利益	2,242	2,075	△167	△7.4
経常利益率%	5.1	4.4	△0.7p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	304	1,390	+1,085	+356.1
自己資本当期純利益率(ROE)%	2.6	11.2	+8.6p	-

(注) 前期比で社内IT投資は約3.5億円増加する見込みです。

売上高は前期比で8%の増収とみていますが、基幹システム刷新等のIT投資や販売・管理費の増加、新型コロナの影響が不透明であることもあり、営業利益は前期並みと予想しています。

当期純利益は、前期は仕掛品の評価減で大幅に減益となりましたが、今期はそのような影響はないと想定しており、大幅な増益となる見通しです。

セグメント別業績予想（前期比）



**セキュリティ事業は増収かつ大幅増益、SI事業は増収も子会社の減益影響で利益は微減
基幹システムの社内IT投資などにより全社共通費用は増加**

（百万円）

売上高	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	18,659	20,500	+1,840	+9.9
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	25,033	26,700	+1,666	+6.7
合計	43,693	47,200	+3,506	+8.0

セグメント利益	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,541	3,400	+858	+33.8
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	3,172	3,100	△72	△2.3
合計	5,714	6,500	+785	+13.7

全社共通費用	△3,597	△4,400	△802	-
--------	--------	--------	------	---

（注）セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

セグメント別では、セキュリティ事業、SI事業ともに増収と予想しています。

セキュリティ事業においては、今期は、社会のデジタル化が一層推進されると見られ、当社のサービス全般ならびに製品販売は大幅に拡大すると予想しています。利益に関しては、前期、第1四半期に診断サービスや教育サービスで新型コロナの影響を受けたことによる稼働減がありましたが、今期はこのような影響を見込んでおらず、大幅に改善すると予想しています。

SI事業は、主力の開発サービスは堅調に拡大する予想です。一方で、ソリューションを軸にした受注体制の整備のための販売・管理費の増加、また保守において子会社の前期にあった特需による反動減を予想しているため、セグメント利益は若干の減益になると予想しています。

株主還元

最後に株主還元です。

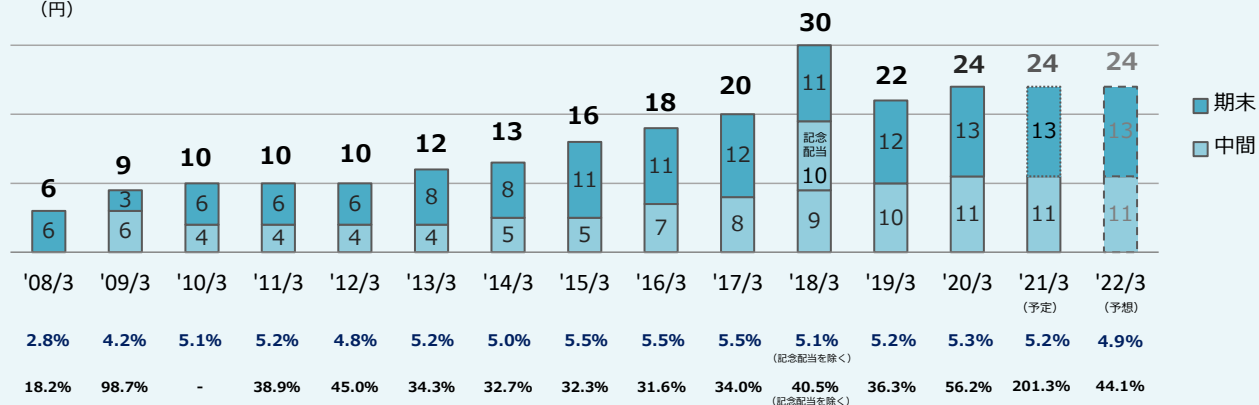
年間配当は24円の予定、今期は24円の予想

配当方針

- 長期的かつ安定的に保有いただくことを目的に、継続的に安定した配当水準を維持
- 基本指標はDOE（株主資本配当率）5%

1株当たり配当金

(円)



DOE

2.8% 4.2% 5.1% 5.2% 4.8% 5.2% 5.0% 5.5% 5.5% 5.5% 5.1% (記念配当を除く) 5.2% 5.3% 5.2% 4.9%

配当性向

18.2% 98.7% - 38.9% 45.0% 34.3% 32.7% 32.3% 31.6% 34.0% 40.5% (記念配当を除く) 36.3% 56.2% 201.3% 44.1%

当社では、配当の基本指標を株主資本配当率、DOE 5%としています。

2021年3月期の年間配当については、中間配当でお支払いした11円と、今後お支払いする期末配当13円をあわせ、予定通り24円になる見込みです。

また、今期の年間配当につきましては、前期と同額の24円で見込んでいます。

私からの説明は以上となります。ありがとうございました。



- ※ 本資料は2021年5月現在の情報に基づいて作成しており、記載内容は予告なく変更される場合があります。
- ※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。
- ※ その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

株式会社ラック
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1
平河町森タワー
Tel 03-6757-0107 (IR直通)
ir@lac.co.jp
www.lac.co.jp

©2021 LAC Co., Ltd.